

令和5年度 事業報告

令和5年4月1日
～令和6年3月31日



能登半島地震義援金 贈呈
(2月15日)



J A 共済交通安全ポスターコンクール
村上香菜さん「農林水産大臣賞」受賞 (12月15日)



地域貢献・地域活性化団体活動表彰式
(11月24日)



第18回キッズサッカー大会
(11月18日、19日)



年金友の会ゴルフコンペ
(5月26日)



ヘルス・マネジメント認定事業所
表彰 (5月15日)

経営・管理・人事

- 「第3次中期経営計画」ならびに「第3次農業戦略実践3ヵ年営農計画」の第2事業年度として、各項目の進捗管理と目標達成に向けた事業改革・業務改善に取り組んだ。
- 営農・経済事業改革として、11月に「J A グリーンかわつ」へ鉄骨造による常設屋外テント新設と産直の垂れ幕のれんを作成し、買い物しやすい売り場とPR強化に取り組んだ。また、「虹のホールかわつ」の利便性向上を図るため、通夜室・安置室の増築及び食堂の改修工事を実施。
- 信用・共済事業改革として、専門性の高いサービス提供と事務堅硬化のため、3月より島根・八束・美保関支店の融資受付対応を基幹支店である川津支店に移管。
- 企画総務部門では、「くらしの活動」の充実・強化を図るために「ふれあい課」を9月に再設置。「経営管理課」を新設し、事務効率化を進めた。3月には、営農指導体制の充実・強化を図るため「米穀産課」「園芸特産課」を新設。中海干拓事業所を「中海干拓営農センター」へ名称変更し移転・機能を拡充（購買品供給体制の充実等）。
- 「くく」にびき改革推進プロジェクトとして、当地区本部が抱える諸課題の解決に向け「不稼働資産流動化」「J A グリーン・グリーンショップ改革」「米集荷・販売運動」「集落座談会・集落委員あり方検討」の4つのプロジェクトを設置し、その解決に向けた具体策について地区本部運営委員とともに協議・検討を行い実施可能なものから取り組んだ。
- 「コンプライアンス・プログラム」に基づく年間行動計画を策定し、実践。また、コンプライアンス遵守・不祥事未然防止を強化。
- 「農業協同組合らしい人づくり、組織基盤の確立と経営基盤の強化に向けた人づくり」として、中央会主催の各種階層別研修へ参加。また、能力開発の一環として、各種資格試験について受験奨励を実施。マネジメント能力向上に向け、管理職に目標管理・人事考課、職場マネジメントの研修会を実施した。

組織・広報・くらしの活動

- 農政会議**—関係団体と連携した行政との意見交換会を開催。有害鳥獣対策等の要望・意見交換を行った。また、緊急会議・研修会活動に積極的に参加。松江市農林水産祭で「米のすくい取り」を実施し、松江市産米の消費拡大をPR。
- 青年連盟**—地域の幼稚園に対し「田植え・稲刈り体験」の農業体験実習や、地域の小学校に対し「イチゴの授業」などの食農教育に取り組んだ。また、地域住民との「ふれあい親子いもほり大会」を開催。農林高校への「出前授業」と行政と連携した食農学習を実施し、農業理解促進に取り組んだ。
- 女性部**—目的別グループは、3グループ（「文化歴史・趣味」・「営農加工」・「健康」）で10講座16回開催し、延べ410人が参加。県下女性部の活動として「米一握り運動」を行い、331kgの米を集め、松江市内のこども食堂、フードバンクへ寄贈。また、J A しまね広報誌での「くく」にびき女性部からのおすすめ料理」や、山陰中央新報の「かあちゃんの一押し献立」において料理を紹介。3月9日、法吉支部の設立総会を開催。（部員数54名）。
- 女性大学**—新型コロナウイルス感染状況を鑑み、女子大学（サンサン女子大）の開講は中止。
- 組合員加入促進**—強固な組織基盤づくりと次世代の組合員化に向け「組合員加入促進」に取り組み、資格変更を含め正組合員は368名（前年度19名）、准組合員は457名（前年度114名）加入。
- 集落座談会**—令和6年1月～2月に全34会場で

葬儀

- 葬儀施行件数は578件（前年度617件）。うち「虹のホール」の会館利用は387件、会館利用率66.9%（前年度424件、68.7%）。
- 葬祭センターでの葬儀事前相談の対応や、自宅等への出張相談に積極的に対応した。
- 「虹のホールかわつ」の利便性向上を図るため、通夜室・安置室の増築及び食堂の改修工事を実施。

信用

- 農業と地域、組合員・利用者をつなぐ金融商品の提供として、夏と冬の定期貯金キャンペーンを実施。精力的に個人貯金増強に取り組み、貯金残高は1,414億410万円（前年度1,409億700万円）。
- 地域の農業メインバンク機能強化の取り組みとして、TACとの情報連携強化を図り、低利で利用しやすい農業資金を提供。新規貸出実績は86件、263,485千円（前年度99件、251,763千円）。
- 個人貸出金は、住宅・マイカー・教育ローンを中心に取り組み、特に子育て世帯を中心に、「魅力ある金利」を提案可能とした、「子育て応援宣言」を引き続き実施。貸出金残高は529億7400万円（前年度496億1200万円）。
- 年金指定口座獲得は、受給権が発生する方への訪問や無料年金相談受付を行い、新規獲得に取り組んだ。また、J A 以外の受給者へ向けた年金指定替活動を実施。年金受給者数は13,553名（前年度13,791名）となり、プレゼント受給者層へは年金予約獲得訪問を行い197件の予約実績（前年度202件）。
- 年金友の会の活動として、「グラウンドゴルフ大会」を開催。また、「第2回ゴルフコンペ」を開催。
- 資産形成・資産運用のサポートとして、組合員・利用者本位の業務運営を行う中で、投資信託の販売に取り組み、販売額は156,791千円（前年度162,385千円）。
- 無料税務相談会を管内7会場（開催回数31回）で開催。相続・贈与税や所得税を中心に76件の相談に対応。
- 島根・八束・美保関支店の融資受付業務を基幹支店である川津支店へ移管し、より専門性の高いサービス提供と事務堅硬化。

共済

- 組合員・利用者に感謝の気持ちをお伝えするとともに、絆の強化を目指し、「3Q活動」を実施。J A 事業や共済事業に関連した情報提供と未請求案件（手術、自然災害など）の解消を目的に、25,108人のフォロー訪問活動を実施。
- 共済契約保有高は、満期契約の増加や転換契約・解約等により前年度より減少し、4,841億円（前年度5,077億円）。
- 「建物更生共済むきプラス」や、新仕組みの「定期生命共済（通減期間設定型）」の積極的なお知らせ活動を中心として、普及を実施。実績ポイント4,692,515P※達成率106.6%（前年度4,863,394P）。
- 短期共済は、スマイルサポーター・L A ・安心サポーターの連携強化に取り組み、新規・継続を含めた契約件数は22,000件（前年度22,155件）。また、クルママスター占有率は28.2%（前年度27.7%）。
- ペーパーレス・キャッシュレス手続きによる業務効率化・事務負担軽減を図り、ペーパーレスは82.6%、キャッシュレスは90.5%の定着化。
- 社会貢献活動の一環として、「松江市へのカープミラー（45基）の贈呈」「管内中学校への反射材の贈呈（タスキ726枚、テープ1,536枚）」および「スタントマンによる自転車交通安全教室の開催」など交通安全意識を啓発。

加工

- 雲州人参**—出荷量は75.0kg（前年度82.0kg）。また、「種苗確保」に取り組んだ。
- 茶**—一番茶は、3月から気温が上がった影響で摘採が早くなり、摘採量は増加。秋番茶は、出荷者が前年より増え摘採量が増加。茶工場取扱量は、一番茶、秋番茶の総計が22.5 t（前年度19.6 t）。また、全役職員による販売活動（サンサン運動）を継続実施。

利用

- 育苗**—水稲苗は、79,978箱（前年度82,751箱）。野菜苗は、14,252トレイ（前年度12,736トレイ）。
- 米穀乾燥調製施設**—カントリーエレベーター「福蔵」960 t（前年度1,025 t）、南ライスセンター357 t（前年度333 t）処理実績。鹿島ライスセンターは、令和5年度より廃止。
- 無人ヘリ防除**—水稲防除面積は、240ha（前年度240.8ha）の散布実績。

購買

- 生産**
 - 生産資材予約とりまとめは、組合員宅へ注文書を送る「個別配布方式（DM）」で、年間3回実施。また、水稲肥料・農薬の早期予約取りまとめを実施し、利用高奨励措置を設け生産資材の供給を拡大。
 - 生産資材価格低減対策の一環として、令和5年度生産水稲資材予約価格は、県下で共通に採用されている肥料・農薬を統一品目として、安価に提供できるように取り組んだ。
 - 集落営農組織・認定農業者等の担い手を対象に、提案型訪問活動を実施し、超大型規格や低コスト農薬などニーズに即した資材提供に努めた。
 - 廃棄農薬2,397.7 kg、廃棄プラスチック15,940 kgを回収し、適正処理による環境にやさしい農業の推進に取り組んだ。

区分	実績	備考
自動車	252,543千円	車両販売 226,897千円 整備部品 25,646千円
LPガス	268,766千円	供給 255,453千円 ガス器具 13,313千円
生活資材	77,903千円	シロアリ工事 48,432千円 テラフオンショップ 28,631千円 その他 839千円
合計	599,212千円	

資産管理・相続相談

- 資産相談センターで相続を中心とした相談業務に取り組み、251件（前年度225件）の相談に対応。
- 資産相談センター実績は、不動産売買3件（前年度13件）、賃貸住宅建設1棟、住宅等の改修リフォームを18件（前年度15件）。また、53棟322室（前年度52棟312室）の賃貸住宅管理によるオーナーの負担軽減と空室対策※空室率2.48%（前年度4.81%）を実施。さらに、資産管理協議会員等へ民法改正や相続税制改正等の情報を提供。

葬祭

- 葬儀形態ニーズの変化に合わせ、利用者の要望に応える葬儀施行。

営農指導・販売

- 産直の品揃えを拡充する取り組みとして、出荷者協議会各支部で野菜栽培講習会を実施。
- 学校給食の地場産野菜利用率増加に向け、新たな品目の供給を実施。
- 農産物別の取り組み
 - 水稲**—①水稲の作柄について、田植え後は順調に生育。分けつ期～幼穂形成期は、気温が平年より高く藻類やガス湧きの発生する圃場もあったが、茎数は平年並みに確保。出穂期～成熟期となる7～9月は高温が続き、米の品質に大影響。また、カメムシの多発により斑点米の被害。品種転換については、「ハナエチゼン」に替わる新品種として、「つきあかり」の作付拡大にも取り組んだ。②米集荷について、生産者への出荷依頼など集荷対策を実施。申出数量92,737袋（前年度96,887袋）に対し、集荷実績80,786袋（前年度86,431袋）、申出対比87.1%（前年度89.2%）となった。③役員による「かがやき舞にくく」つや姫（無洗米）」の新米キャンペーンを実施。販売数量534袋。
 - 野菜**—①くくキャベツは、夏場の高温により秋冬キャベツ苗の生育不良が発生し、供給本数減少が影響したことにより、販売数量は805t（前年884t）と減少。②くくにびき南瓜、くくにびきレタス、島根たまねぎは特産化に向け、新規栽培者の確保と生産者の所得向上、生産拡大に取り組んだ。各生産者・作付面積は、南瓜で51経営体・8.8ha（前年55経営体・10.1ha）、レタスで25経営体・3.5ha（前年20経営体・3.0ha）、たまねぎで4経営体・4.1ha（前年4経営体・2.8ha）。
 - 西条柿**—①ドライアイス脱氷生果西条柿「こづち」は、夏の高温の影響で、日焼け果の発生や色付きの遅れ、カメムシ被害等により出荷量が減少。県内外市場とサンサン運動を中心に25.0 t（前年度39.2 t）の出荷量。②東出雲町産柿「あまほ柿」は瀬戸内市場、「あんほ柿」は広島、京都市場を中心に出荷。販売面では、小玉傾向とカメムシ被害等により出荷数量が減少。
 - 牡丹**—①お歳暮・正月向けを中心とした牡丹鉢花は、開花調整期間は順調に生育し、消費者需要に対応する数量を確保。出荷量は4,622鉢（前年度4,484鉢）。②苗木用の普通苗は、生産量の減少により出荷量が8.3万本（前年度9.9万本）と減少。既存販売先に重点を置いた販売に取り組んだ。
 - そば**—播種は、順調に作業が進み、発芽は良好。以降の生育は、気温が高い日が続いた影響で登熟が例年より遅延。台風・長雨等の影響が少なく収量は前年より増えた。栽培面積は117.9ha（前年度123.4ha）、収量は51t（前年度32t）。
 - 畜産**—①子牛価格は、一定の相場で推移し、子牛出荷頭数は、124頭（前年度137頭）と減少。②和牛繁殖雌牛の生産性向上のため、県単・市単事業等の補助事業を活用し、優良雌牛を15回開催し、延べ11頭を導入更新。③生乳は、乳量が119t（前年度237t）、販売高は16,554千円（前年度30,635千円）。④鶏卵は、年度当初から秋にかけては販売金額が前年を下回ったが、年末から年度末にかけて鳥インフルエンザの影響により卵価が値上がりしたため、販売高は44,707千円（前年度39,533千円）。

保管

米の集荷・検査買入数量は、下佐陀倉庫904 t（前年度985 t）、ライスターミナル「米蔵」1,192 t（前年度1,305 t）。



「松江いちご部会」設立総会 (11月27日)

主な農産物販売高

米	686百万円
野菜	909百万円
果樹	65百万円
畜産物	171百万円

- J A しまね「第3次農業戦略実践3ヵ年営農計画」（令和4年度～令和6年度）の第事業2年度として、重点実施事項に基づき、管内の農業振興に取り組んだ。
- 新規就農者等を対象とした育成研修の一環として、6次産業化、経営戦略に関する学習会を開催し支援。また、新規就農希望者の就農計画作成等の就農支援を、島根県、松江市と連携し実施。
- 担い手サポートセンターを中心に、担い手経営体に対して、専門家と経営改善によるコンサルティングを実施。また、農林中央金庫とローンセンターと連携し、経営課題を可視化し、短期、中期、長期課題に対して解決策を提案する担い手コンサルティングにも取り組んだ。
- 法人設立を目指す対象地区について、関係機関と連携し相談・支援を実施。
- 労力支援として（株）農協観光企画の「援農ボランティア」を活用し、農業作業支援を実施。また、島根県、松江市と連携し農福連携の取り組みを進め、新たな経営体に福祉事業所とマッチングに取り組んだ。
- 国の肥料価格高騰対策事業の取り組みに関し、松江地域農業再生協議会と連携し事業申請者への支援を実施。（242件、27,704千円の支援）
- 新規就農者の施設取得に向けた支援として、リースハウス事業を活用した取り組みを紹介し、就農がスムーズに出来るように取り組んだ。
- 水田を活用して栽培可能な作物である新規需要米について、飼料用米の作付面積は83.1ha（前年度90.6ha）。耕畜連携によるWCS用稲は94.1ha（前年度93.2ha）。
- 安定的な販売に取り組むため、収穫前契約を推進し、米卸業者に対応した品種転換に取り組み、集荷数量は、「きぬむすめ」990.6 t（前年度1,017.3 t）、「つや姫」547.3 t（前年度609.8 t）。
- 良質米生産の推進と売れる米づくりの実践に向け、「水稲指導会」の開催、「稲作メール」「稲作情報」による情報提供を実施し、品質向上対策に取り組んだ。1等米比率は、収穫時期の高温による影響で「コシヒカリ」が4.3%（前年8.8%）と低く、「きぬむすめ」で76.9%（前年85.5%）、全体では48.2%（前年54.0%）と前年より低下。
- 地産地消の取り組み
 - 新規産直会員の増加に向け「さんちよく営農塾」を開講し、16名が参加。うち業者協議会員は、59名|団体が新たに加盟し、145名。
 - 産直事業は、J A グリーンかわつに常設屋外テントを新設。垂れ幕のれんを作成し、買い物しやすい売り場とPR強化に取り組んだ。一部インショップでは産直売場のリニューアルなど販売強化にも取り組む。販売額は629,062千円（前年比92.9%）。

J A しまね農業振興支援事業・業績還元資金

- 農業振興支援事業**
担い手や農業者へ、農業生産の拡大による農家所得の向上を図るため、「園芸重点6品目産地拡大支援」「地区本部独自支援事業」として、合計で1,595千円を支援。（単位：千円）

支援名	内容	金額
園芸重点6品目産地拡大支援	キャベツ（苗、肥料）150千円、たまねぎ（種子）150千円の支援実施（支援対象 1農家法人、認定農業者1名）	300
地区本部独自支援事業	認定新規就農者10名、資材、機械、施設に対し支援実施	1,295
合計		1,595

- 業績還元**
「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に取り組み還元として「米出荷奨励」に対し2,666千円、「肥料農薬特価販売」に対し3,505千円、「J A 事業とJ A くらしの活動の展開」に取り組む還元として「ご来店感謝デー」に対し1,043千円、総額7,215千円を還元。（単位：千円）

資金使途	内容	金額
令和5年度米出荷奨励	令和4年度の出荷数量よりも増加した令和5年度出荷数量に対し、業績還元より袋当たり「100円」を上乗せする。	2,666
肥料農薬特価販売	各J A グリーン・グリーンショップで、組合員・利用者が幅広く購入される肥料と農薬を厳選し、2割引特売を実施する。また、専作園芸肥料・農薬予約分（11月DM取りまとめ）についても、該当品目については2割引特売の対象とする。	3,505
J A 事業とJ A くらしの活動の展開	ご来店感謝デーやエコロ祭等、各支店運営委員と実施内容を協議し、各支店100千円（税込）を予算として総額1,400千円の業績還元を実施する。	1,043
合計		7,215